

ベネフィット・リスク評価の概要

修士課程1年 栗原 愛佳

概要

医薬品の投与や治療など、医療介入にはベネフィットとリスクが伴う。ベネフィットが明らかにリスクより大きい場合やその逆の場合では簡単に医療介入の決定を行うことができる。しかし実際にはベネフィットとリスクが同程度である場合や、ベネフィットよりリスクが大きい治療法が確立していない場合などベネフィットとリスクを慎重に考える必要がある。さらに患者のベネフィットとリスクに対する選好を踏まえて判断することも求められている。現在のベネフィット・リスク評価では定性的に行うことが基本であり、定量的な評価は数多く発表されているが確立された手法はない。しかし定量的手法では、こうした複雑さや患者の選好を考慮した意思決定に対応することができる。したがって定量的手法を用いることで、定性的な評価のサポートを行うことができる。

今回は発表されている定量的な手法の一部について紹介をし、その利点や欠点を説明した。そして今後の研究テーマ案を共有し、意見交換を行った。